

第69回前島密賞受賞者決定について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

本日 15 時に公益財団法人通信文化協会が報道資料「第 69 回前島密賞 受賞者決定について」を総務省記者クラブならびに日本郵政株式会社記者クラブに配布しております。

ケーブルテレビ業界では、以下2名の方が受賞の栄誉に浴しましたのでお知らせいたします。

前島密賞： まつうら りゅういち
松浦 隆一 氏

株式会社秋田ケーブルテレビ最高顧問

元一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟副理事長

前島密奨励賞： にっさとともゆき
日里 友幸 氏

ケーブルテレビ株式会社 技術部 部長代理

一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟 情報通信制度委員会委員

一般社団法人日本ケーブルラボ 技術委員会委員

■前島密賞について

通信事業の創始者「前島密」の功績を記念し、その精神を伝承発展せしめるため、1955年に設けられ、情報通信および放送の進歩発展に著しい功績のあった方々に贈られます。奨励賞は、第66回から新たに設けられ、情報通信・放送分野において、現に活躍するとともに実績を上げており、今後もなお一層の功績が期待される方々に贈られます。

■ご参考

公益財団法人通信文化協会の報道資料(抜粋)を添付しております。

■本件に関するお問合せは下記までお願いいたします
一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟 <<https://www.catv-jcta.jp>>
担当：地平・中井田
TEL：03-3566-8200 FAX：03-3566-8201

敬具

報道資料

第69回前島密賞 受賞者決定について

公益財団法人通信文化協会では、第69回（令和5年度）の前島密賞の受賞者を別紙のとおり決定しました。贈呈式は、4月11日（木）に行います。

記

1 前島密賞の趣旨等

前島密賞は、通信事業の創始者「前島密」の功績を記念し、その精神を伝承発展せしめるため昭和30年（1955年）に設けられたもので、以降毎年度、情報通信事業（郵政事業を含む）及び放送事業の進歩発展に著しい功績のあった者に贈呈しています。

また、第66回より、新たに「奨励賞」を創設し、情報通信・放送分野において活躍し今後もなお一層の功績が期待される者に贈呈しています。

情報通信・放送は、日常生活に欠かせない重要なインフラであり、コミュニケーションツールです。通信の役割が益々重要になってきており、大量の情報が取り扱われています。一方、通信障害やセキュリティも大きな問題となっているところです。

このような状況の中、今回は、通信サービスの提供の維持・発展、地域活性化の実現等への貢献や次世代の情報通信インフラを支える技術開発、また、放送の多様化に寄与するものなど、時代の要請にかなった功績となっております。

通信文化協会は、引き続き通信・放送文化の発展のために取り組んでまいります。

2 受賞者の概要

(1) 前島密賞

15件 31名

- ① 情報通信・放送分野において、長年に亘り多大な功績のあった者、先駆的な研究開発を行った者など。
- ② 通信・放送の提供や維持に貢献があった者、地域のインフラとして地域貢献に資する功績があった者など。

なお、副賞として、元日展理事、日本芸術院賞・恩賜賞受賞 高橋剛氏作のメダル（ただし、共同研究・共同行為による受賞者は金一封）を贈呈します。

(2) 奨励賞

4件 4名

- ① 若手経営者として活躍している者、現場の第一線で活躍している者。
- ② 先駆的な研究開発を行った者。

なお、副賞として、前島密賞のメダルの意匠を入れた楯を贈呈します。

3 選考要領

毎年、当該年度の実施要領に示す推薦機関から受賞候補者の推薦を受け、選考委員会の議を経て理事会で決定します。

4 贈呈式

- (1) 日時
令和6年4月11日(木) 午前11時00分
- (2) 場所
KKRホテル東京
(千代田区大手町1-4-1)

5 協会の定款及び前島密賞規程

○ 公益財団法人通信文化協会 定款 第3条

本法人は、郵政博物館の運営、前島密賞の贈呈、通信文化の普及・発展等に関する事業を行い、もって我が国の手紙等文字コミュニケーション文化と情報通信・放送文化の向上に寄与することを目的とする。

○ 前島密賞規程(抄)

第2条 前条の賞は、前島密賞及び奨励賞とし、それぞれ次の各項に該当する者に贈る。

2 前島密賞

情報通信・放送に関わる次の各号ごとに、特段の功績があったと認められる者。

- (1) 情報通信ネットワークの提供及びユニバーサルサービスの維持のために顕著な功績があった者
- (2) ICT(情報通信テクノロジー)に係わるイノベーションを立案し、ネットワーク社会の進歩発展に顕著な功績があった者
- (3) ネットワーク社会の進歩発展又はコミュニケーション文化の振興・発展に関し、顕著な功績があった者

3 奨励賞

情報通信・放送分野において、現に活躍するとともに実績を上げており、今後もなお一層の功績が期待される者。

[連絡先]	公益財団法人通信文化協会 前島密賞事務局 小林 〒113-8139 東京都文京区湯島 4-5-16 TEL : 03-5809-7148
-------	----------------------------------------------------------------------------

第69回（令和5年度）前島密賞 受賞者 功績

（敬称略）

所属・職歴は、推薦時

9 一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟推薦

[個人：功績1号]

松浦 隆一	(株)秋田ケーブルテレビ最高顧問 元（一社）日本ケーブルテレビ連盟副理事長 ・2020年 一般社団法人ケーブルテレビ連盟・日本CATV技術協会 「第32回ケーブルテレビ功労者表彰」 他3件
<p>【ケーブルテレビ事業を通じた地域貢献により、事業拡大と地域発展に貢献】</p> <p>(株)秋田ケーブルテレビ代表取締役社長として長きに亘り、経営基盤強化、営業力向上及びサービスの多様化のほか、地域の活性化に資する様々な取り組みを行うなど東北有数のケーブルテレビ事業者に育て上げた。東日本大震災の際には、迅速な意思決定と行動力で陣頭指揮を執り、被災地支援に尽力した。</p>	

1997年、(株)秋田ケーブルテレビの開局時より経営に参画以降、常務取締役を経て、2004年に代表取締役社長就任後も一貫して経営基盤強化、営業力向上及びサービスの多様化に取り組み、早期の黒字化を実現したほか、卓越した経営手腕を発揮され、東北地方有数のケーブルテレビ事業者に育て上げた。

また、地域の活性化を図るため、ケーブルテレビ事業ならではの武器であるコンテンツを活用した取組みとして、2016年度から5年に渡り、タイ、ベトナム、台湾などの各国との間で、現地制作クルーによる秋田町の実施、現地での秋田フェアの開催、各種インターネット媒体を通じた情報の発信等、双方向の様々なコラボレーションを複合的に展開した。その結果、秋田”の知名度向上のみならず、秋田を訪れる各国の旅行者が増加するなど地域振興に貢献した。

さらに、認可事業保育園を運営する子会社を設立し、事業所内保育所を自社で運営することにより、働きやすい環境を整備するとともに、定員の半数は社員外のご家庭のお子様をお預かりすることで、秋田の少子高齢化、人口減の対策にも繋がる取組みとして高く評価された。

2011年3月東日本大震災の際、被災した東北支部長に代わって迅速な意思決定と行動力で陣頭指揮を執り、被災地支援に尽力した。

日本ケーブル連盟の活動においては、コンテンツ特別委員会副委員長、連盟副理事長を歴任し、業界における地域コンテンツ利活用の拡大、好事例の共有、制作力の向上、流通の促進等に尽力したほか、4K8K放送の開始、ローカル5Gの制度化など、業界全体を左右する様々な議論が行われる中、業界の健全な発展に貢献した。

第69回(令和5年度) 前島密賞 受賞者 功績

《 奨励賞 》

(敬称略)

所属・職歴は、推薦時

4 一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟推薦

[個人]

日里 友幸	ケーブルテレビ(株) 技術部 部長代理 (一社)日本ケーブルテレビ連盟 情報通信制度委員会委員 (一社)日本ケーブルラボ 技術委員会委員
【地域 IX、F-カ 5G 等の実証実験を通じ、業界における新事業分野を開拓】 ケーブルテレビ業界全体に、テクノロジーを通じ、業界連携・横展開、事業化・サービス化に繋げる活動により貢献した。地域 IX、L5G においては、単なる技術実証にとどまらず、防災・ビジネス面での事業化、他地域での横展開など、業界のリーダーとして新規事業の展開や様々な課題解決に向け貢献することが期待される。	

栃木ケーブルテレビ(株)(現在はケーブルテレビ(株))に入社以降、一貫して技術部に所属し、通信事業の推進、エリア拡張に伴うインフラ整備に手腕を発揮し、無線事業に進出後は、その事業基盤(地域 BWA 基地局、F-カ 5G(L5G) 基地局、IoT 基盤)整備にも中心的役割を担った。

こうしたことにより、2015 年から一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟の通信・放送制度委員会に委員となり、テクノロジーを通じての業界連携・横展開、実証から事業化・サービス化に繋げる活動にも尽力した。

2020 年以降、総務省による「トラフィック流通効率化に向けた集約 ISP に関する調査研究」を始め、2021 年「トラフィック流通効率化に向けた HTTPS キャッシュ活用型集約 ISP に関する調査研究」、2022 年「ISP におけるネットワークセキュリティ技術の導入に関する調査の請負事業」、2022 年「地域課題解決型 F-カ 5G 等の実現に向けた開発実証」など全 6 件の開発実証を行った。

このうち、トラフィック流通効率化に関する実証研修は、いわゆる地域 IX に関する開発実証として、近隣のケーブルテレビ事業者を巻き込み、各社間に敷設した光ファイバーを活用して地域 IX を構成することで、利用者の利便性の向上、事業者のコスト削減などを実現し、その後構成事業者の多くと地域 IX の運営を継続し、事業化への道筋を付けた。また、他の実証研究は、自社エリア内の河川監視カメラやゴルフ場に L5G 網を構築するなど防災分野やビジネス利用の可能性など貴重な成果をもたらした。

このように、単なる技術実証にとどまらず、複数の事業者・関係者を巻き込み実現化の道筋を付けたことは、今後も業界のリーダーとして新規事業の展開や様々な課題解決に向けて貢献するものと期待される。